

# アイデアの宝船

- 外国人介護人材との協働から……………1
- EPA 介護福祉士候補生、日本語ゼロからの挑戦…3
- 金融機関のトレーダーから、介護福祉士への転身…4

スリーエーネットワーク

## 特集 介護の現場から

### 外国人介護人材との協働から

～人材育成の先にあるものを見据えて～

特別養護老人ホーム袖ヶ浦菜の花苑

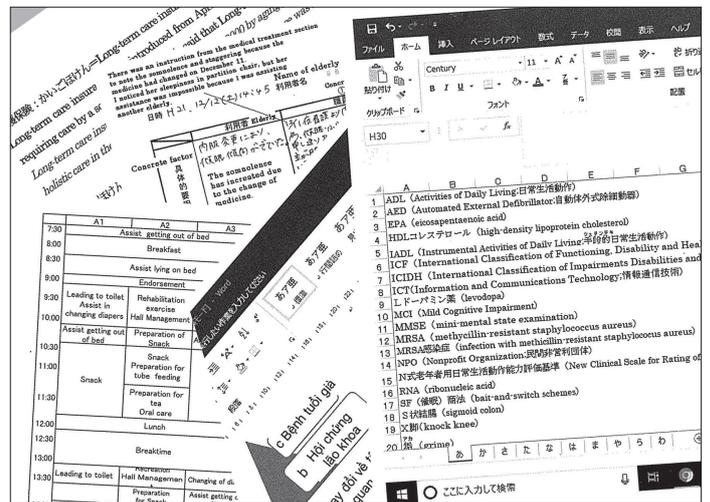
施設長 剣持敬太 (社会福祉士・介護支援専門員)



筆者は「ベトナム看護師養成支援事業(1992～2010年)」協力は病院が母体の福祉法人に勤務し、海外人材受け入れに関しては恐らく他の御同業よりも早くからスタートを切り、2004年「日比医療福祉人材還流プロジェクト」の構造改革特区申請から携わっている。今に至っては医療・福祉両法人で25名(全受け入れ状況は約40名)を擁し、今後EPAのみならず、特定技能のビザで来日する人材や留学生受け入れを計画している他、介護福祉士養成校で学ぶ中国・韓国・モンゴル・インドネシア・スリランカ・ベトナムの学生、NPO法人で日本の医療福祉分野で就労する、あるいは就労しようとする海外人材らの支援を行っている。海外人材の受け入れ、支援に携わる者としてこれまで実践してきたことを述べる。

受け入れにあたっては介護現場のスタッフにも現地面接への参加を求め、早期から一般職員や利用者家族に、来日する海外人材受け入れの情報をリリースするよう心掛けて来た。日比EPAの人材受け入れが遅れた時には「まだいらっしゃらないの?」と利用者御家族にご心配戴くこともあったし、受け入れ前から支援部署を充足させ、受け入れ指導者・支援者を定めて備品の準備や書類の翻訳を始めるなど、事前の準備を行うことで、トップダウンではなく職場として海外人材を受け入れる意識の醸成に繋げることができた。人材確保に苦慮する時代の到来以前から海外人材受け入れの具体的検討を始めてきたことが、ここまで一定の成果に繋がっており、これは当法人会長の先見の明に尽きよう。

重要なもう一点は、海外人材を過剰なゲスト扱いをしないということになるか。海外人材について「彼ら彼女らはアンバサダーだ」ということを当法人の会長から常々聞かされてきた。特別扱いするわけではなく、お互いに小さな親善大使として向き合えという意味と解釈し、精一杯付き合ってきたつもりだ。文化や慣習の違いがあろうとも、真正面から向き合う気概で臨んできた結果は、来日から7～9年滞在し、「いずれは永住権を…」と考えているEPA介護福



介護用語・記録用紙・1日のスケジュールなどを翻訳した手作りの資料

祉士合格者が複数名いることに及んでいる。こちらがボスだ、指導者だと気負うわけでもなく、特別ゲスト扱いでもなければ職員不足を補う単なる戦力扱いでもなく、相互の信頼関係を大事にしながら向き合う姿勢は、介護にも通ずる対人援助の基本姿勢そのものであると言ってよい。

日本人・海外人材ともに給与水準が同等である以上は他の部分も出来るだけ同じ条件であるのが美しい在り方で、海外人材ばかりが手厚く支援され、優遇される中では協働は生まれない。大きな格差は、協働に対する不安や不満の元になる場合もある。そのため勤務時間内の「介護の日本語学習支援」と「受験科目支援」は必要最小限に留めてきた。受け入れた多くのEPA介護士候補者が「他の受け入れ事業所の方がもっと勉強時間を作ってくれる」と口にしたが、おそらく本当のことだろう。そこで、就業時間内にフォロー出来ない学習支援は時間外で補填することとし、公平を期して外国人スタッフだけでなく日本人、そして外部の方も原則無償で受講出来る「介護福祉士国家試験受験対策講座」を事業として立ち上げた。30年度の講座参加者の国家試験合格率は80%、EPA候補者は外部参加者も含めて全員合格に結び付けることが叶い、フォローは十分に果たしていると自負している。

この様な経緯により、海外人材も日本人も同じスケールで評価し、昇給や昇格に繋げる人事考課も自然と構築される結果となった。資格を取得し、長期に渡って就労する海外人材のひとりとは、一昨年度から初の外国人役職者に着任して後進の指導者としても活躍し、それが本人の励みにもなっている。またその姿に母国の家族も喜んでくれていると聞く。母国、家族から離れて来日し、ニホンゴなる



介護課サブリーダーとして活躍するフィリピン出身のアルフォルジャさん

難しい言語を用いて試験をパスする EPA の場合、国家試験というハードルを越えた後の目的・希望の喪失は大きな課題だ。「5年働いたら次はケアマネジャー試験に…」と人はよく言うが、介護専門職が相談援助専門職として必ずしも成功するわけではないし、試験内容は実務とかけ離れ、ケアマネジャーとして勤務するのであれば資格取得後のメリットもあまりない。多様性を活かせる環境を作り、時には日本人介護福祉士の上に立つリーダーとして現場を牽引して貰うことの方がより自然なハードルである。こうしたキャリアパスが築ける道筋を作ることも重要であろう。

以上が我々の事業所でのこれまでの取り組みだが、今や様々なルートからの海外人材に門戸が開かれ、今後は経験や動機・意欲・希望も多様な人材が来日することになるだろう。そんな中で、対人援助の現場は入国時あるいは就労時の日本語能力により注視していくことは想像に難くない。しかし、我々はこれまで試験で測れる日本語能力のみを最優先事項としてきたわけではない。実は日本語能力試験 N2 合格者ではなく N3 合格者を選抜したことさえある。それは、地域や地方・国といったレベルでまだ“海外人材が住みやすい日本”になっていないことから、本人の性格傾向や就労意欲、志望動機、将来設計を含め「適応力」が求められること、そして何より対人援助専門職としてコミュニケーション（言語・準言語・非言語部分を含め）において、利用者・家族・同僚などの向き合う相手に配慮出来るかどうかこそが重要だからである。

ただ、いずれにしても国籍や業種を問わず、人材育成のテーマは同一で、異なるのは言語を含めた手法であり、それはさほど重荷ではないと考えている。勿論異なりを乗り越えるための手当てには人・物・時間・金銭・情熱も必要となるが、決して持ち出しばかりではなく、用いた全ては誰の育成にも活き、苦勞したことさえ別の場面で活きる。そうでなくていけないし、そうせずして受け入れの相乗効果は生まれない。

得られる見返りは目に見えるものや金銭に換算出来るものばかりではないのだが、それが全てでないことを皆本来は知りつつ、こと海外人材支援に関しては「幾らお金を注ぎ込むのだから〇年は働いて貰わないと…」と計算含みでまず人を見てしまう怖さも潜んでいる。部下が「人間不信になりそうです」と呟いたことがあった。自らの苦勞を厭わず支援した海外人材が、試験に合格してこれからという時に帰国…、そんな気持ちになることも察するに余りあるが「当事者が残ろうか帰ろうか、海の向こうから来た人を合格に導く支援を叶えることが出来た貴方も凄いのだけ」と返したのを覚えている。

前提条件として期間の区切りがある方が受け入れやすいのか、EPA の様に資格取得まで寄り添い長期に就労して貰う（貰いたい）方が受け入れやすいのか、現場の意向も含めた方向性を探ることが求められ、それに応じて循環雇用的人材として支援するか、長期的雇用の人材としての支援をするか、あるいはその両立か決めていかねばなるまい。特に技能実習にあっては、その本分である介護の技能移転（帰国）を意識することも求められよう。いずれにせよ計算含みで人を見る様な、魅力的で健全とは言い難い他者との向き合い方は回避したいものだ。

どの様な形であれ、何処かに必ず見返りがある。仮に当事者が帰国となっても、彼ら彼女らにも我々にも経験値や知識・技術や思い出が、そして未来に繋がる希望が根付くものである。そういった残るものが見つけられないのは、仕事として完遂していないことだとさえ思うのだ。幾つか別れも迎え、無力感も体験したが、それだけであるはずがない。艱難辛苦はあれど、その彼岸には輝きがあって、だからこそ「希望を探すこともサポートのひとつ」だとこれからも呼び掛けていきたい。それこそが“Win-Win の協働”を作り出すカギだと信じている。



袖ヶ浦菜の花苑および系列施設カトレアンホーム・外国人スタッフの皆さんと日本語支援にあたる西己加子先生(右端:『はじめて学ぶ介護の日本語 基本のことは』著者)

### 剣持敬太 (けんもち けいた)

『はじめて学ぶ介護の日本語』(当社刊)シリーズ校閲者。特別養護老人ホーム袖ヶ浦菜の花苑施設長。NPO 法人 AHP ネットワークス理事。EPA 候補者を含む人材支援部を統括し、現在は介護福祉士養成講座やベトナムで使用する現地語による老年看護・介護学の教材開発にも従事する。

## INTERVIEW 1

## EPA 介護福祉士候補生、日本語ゼロからの挑戦

『はじめて学ぶ介護の日本語 基本のことば』インドネシア語翻訳者のヘンリーさんに聞きました。

## ヘンリー・メタ・ファディラ さん

ジャカルタ出身。2007年にジャカルタ市立看護学校を卒業し、翌年8月にインドネシア第1陣のEPA介護福祉士候補生として来日。佐賀県の特別養護老人ホーム天寿荘にて実習を積み、2012年に国家試験に合格。現在は介護福祉士として特別養護老人ホームさわやか苑(神奈川県)に勤務。

## —来日時は日本語がほとんどわからなかったと伺いました。

ひらがなとカタカナがほんの少しわかるくらいでした。(イスラム教徒ですから)はじめに「豚肉入っていますか?」を習ってコンビニで買い物したのですが、いい加減な店員さんの「ないない!」を信じて、豚肉入りのカップ麺をたくさん買ってしまったのは笑い話です。日本語は国際交流基金関西国際センターで6カ月間、『みんなの日本語』を使って勉強しましたが『初級Ⅱ』の途中までで、佐賀の特別養護老人ホームに移りました。移ってからは佐賀の方言がわからなくてまた大変でした。

## —2012年に介護福祉士に1度で合格、2013年には日本語能力試験N1にも合格されました。勉強のコツを教えてください。

(日本語の勉強で大切なのは)日本人の友人を作ることです。覚えたことばは友達との会話で積極的に使いました。友達が変な顔をすると「あれ、使い方がおかしかったかな?」と思って、正しい使い方を教えてもらいます。友達と話しながら日本語も勉強できておすすです。

「自分にあった勉強方法を探す」も重要です。私の場合「どんどん問題集を解く」が合っていました。問題集は別の会社の本でしたが、わからない問題があるとスリーエーネットワークの『新完全マスター文法』の文法解説を読んで、また問題に挑戦する…を繰り返しました。それから「パターンを見つける」ことです。たとえば佐賀の方言ですが、「～(し)ている」は「～(し)よる」になるというルールがわかれば勉強が楽になります。「介護」の勉強も同じです。たとえば申し送りや介護記録で施設の利用者さんに異常があったかどうか伝えるパターン、よく使うことばなどは施設ごとに大体決まっているんです。

最後は「やる気!」です。漢字と語彙は覚えるしかありません。また、介護福祉士の国家試験は当時120問を210分で解かなければなりません。私ははじめての模擬試験で120問中、20問しか正解できなくて危機感をおぼえて必死でがんばりました。介護の制度や法律は難しいことばばかりで本当に苦手でしたが、「難しい読解問題」だと思って挑戦しているうちに、日本語能力試験の読解力もついたと思います。



ヘンリーさん(左)と、インドネシア現地版の『はじめて学ぶ介護の日本語 基本のことば』(上)

## —2017年には『はじめて学ぶ介護の日本語 基本のことば』で翻訳者をつとめてくださいました。翻訳の仕事はいかがでしたか。

日本語があまりできなかった10年前には信じられないことです。インドネシアでも『はじめて学ぶ介護の日本語 基本のことば』が発売されたと聞きました。ちょっと照れくさい気持ちです。

翻訳ではスリーエーネットワークから色々な問い合わせがありました。たとえば、ことばの途中で改行するときハイフンを入れる位置が合っているか、「煮る」と「茹でる」の訳が両方 Merebus になっている(インドネシア語では2語の区別がありません)ので、味のついたスープかそうでないか説明をつけてほしいとか。他にも「吐瀉」の訳は、口から出たものとお尻から出たもの両方の訳になっているかなど。出版社は本当に細かいところまでチェックするんだなと思いました。この本は介護施設で使うことばがよくまとまっています。ぜひ介護を勉強している方には辞書のように使ってほしいですね。

## —最後に、これから介護福祉士を目指す後輩にメッセージをお願いします。

「働きながら勉強するのは大変」「日本語も介護も勉強しなきゃいけないから」「漢字が難しい」、試験合格が困難な理由を探すのは簡単です。私たちインドネシアの第1陣は、実習前の日本語学習が日本での6カ月しかありませんでしたが、今は国で6カ月、日本で6カ月、2倍の勉強時間があります。また、国家試験も受験がしやすく工夫されていますね(全ての漢字にルビがついた・EPA候補生は試験時間が1.5倍になったなど)。確かに「大変」ですが「不可能」じゃありません。目標と目的意識をもって一生懸命勉強すればきっと「合格」できるはず。将来「私たちはこんなに日本でがんばったんだ!」と胸を張って国に帰れるように、諦めずにがんばりましょう!

## INTERVIEW 2

# 金融機関のトレーダーから、介護福祉士への転身

『はじめて学ぶ介護の日本語』シリーズで学んだ蔡さんに聞きました。

### 蔡依凌 (サイ・イーリン)さん

台湾出身、東呉大学日本語文学科卒業。7年間金融機関に勤め、その後来日。大原学園専門学校介護福祉士コースで学び、2019年1月の介護福祉士国家試験に合格。現在は社会福祉法人賛育会・特別養護老人ホーム東京清風園で活躍する介護福祉士。

#### —日本で介護福祉士を目指したきっかけは何ですか。

台湾では家政婦さん一人に高齢の両親を任せきりなど、要介護者が外と隔絶されているケースも多く、「この状況は寂しいな」と思ったのがきっかけです。また、台湾には「介護福祉士」という国家資格がありません。それで、制度や仕組みがしっかりしている日本で要介護者が笑顔で過ごせる介護技術と環境づくりを学ぼうと思いました。

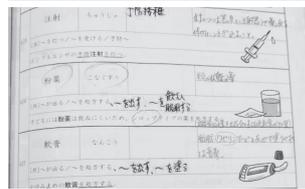
#### —来日の際は専門学校の本科ではなく、「進学予備コース」を選んだということですが。

介護を学びたい気持ちは強かったのですが、介護職に向いているか不安もあり、大原学園の「介護福祉士進学コース(1年制)」を選びました。このコースを選んでよかったのは、介護の日本語と生活の日本語を同時に学べ、日本で暮らす不安が解消できたこと、専門学校進学前に仕事の範囲を理解できたことです。「介護」というと「出来ないことを代わりにしてあげる」「傍にいてあげる」程度だと思っている留学生も多く、入浴や排泄まで介助すると知ってショックを受ける場合があるようです。コースで使用した『はじめて学ぶ介護の日本語 基本のこぼ』には入浴や排泄介助の語彙も収録されており、こぼを学びながら仕事のイメージをもつことができました。

#### —『はじめて学ぶ介護の日本語』シリーズでの勉強はいかがでしたか。(※蔡さんが勉強していた当時、本シリーズはまだ「試行版」でした)

専門学校では日本人学生と一緒に学びました。入学直後の授業から『はじめて学ぶ介護の日本語 基本のこぼ』で習ったことばがわーっと出てきて、事前に勉強しておいてよかったと思いました。また、現場では申し送りや記録の際、入所者の方の状態を正確に伝えるためにオノマトペが役に立ちます。この本にはオノマトペが入っていて、その重要性にも気がつきました。索引も便利なので、わからない言葉があったら辞書のように使うのもおすすめです。

『基本のこぼ』で覚えたことばが、制度の説明や業務の中で実際にどう使われるかは、『はじめて学ぶ介護の日本語 基本の知識』で確認していきました。『基本の知識』には読む練習が多く、キーワードをおさえて、自分のことばで説明し直すタスク(語彙マップを作って説明する練習)もあります。説明が不十分だと同級生から厳しく質問されるので難しいのですが、この練習は力がつくのでこれから勉強する人にもぜひがんばって挑戦してほしいです。



上:「睡眠障害」を語彙マップにまとめ、説明する蔡さん

左:意味・用法がたくさん書き込まれた蔡さんの『基本のこぼ(試行版)』(試行版には訳はなし)

#### —今年、介護福祉士に合格されました。施設でのお仕事はどうですか。

ケアマネージャーが立てたケアプランをどう実現するか、具体的な方策と介護目標を設定・実行するのが私達、介護福祉士の仕事です。どうしたら施設の利用者さんが毎日をよりよく過ごせるか、指示に従うだけだった実習のときと違い、自ら立案・実行できるようになったことが嬉しいです。気をつかうのはやはりコミュニケーションですね。職場では、利用者さんと信頼関係が築けている場合「〇〇さんご飯食べよう!」のように「普通体」で話しかけてもよいのですが、ご家族の方と居るときは「です・ます体」で丁寧な話し方を心がける等、状況によって声かけの仕方も変えています。また、ご家族の方は施設に対する期待が大きく、利用者さんがいつまでも健康であることを願っています。ですから、ご高齢で利用者さんが弱ってきていてもその事実を伝えるのは辛いです。マイナス面のことも伝えなければいけません、「午前中、他の入所者の方とレクリエーションを楽しんでいたんですよ」のようにプラス面のことも一緒に伝えて不安を減らすように心がけています。

#### —最後に、今後の抱負をお聞かせください。

国に戻って小規模多機能型居宅介護(通所・訪問・短期入所)に対応した自分の施設をもつのが私の夢です。いつか台湾の高齢者の方を私の施設で支援できるよう、夢に向かってがんばります。

J@Net  
No. 90

季刊ジャネット  
別冊

2019年7月25日発行

● 発行人 藤寄政子  
● 発行所 (株)スリーエーネットワークJa-Net 編集室  
〒102-0083 東京都千代田区麹町 3-4  
トラスティ麹町ビル 2F  
TEL: 03-5275-2722 FAX: 03-5275-2729  
E-mail: sales@3anet.co.jp https://www.3anet.co.jp/  
● 印刷 (株)ワコー  
© 2019 by 3A Corporation  
Printed in Japan (禁無断転載)